

学会企画シンポジウム 1

非認知能力

——基本的な考え方，応用可能性，そして問題点——

企画・指定討論：小塩真司（早稲田大学）

企画・司会：中谷素之（名古屋大学）

企画・話題提供：西山久子（福岡教育大学）

話題提供：川本哲也（慶應義塾大学）

話題提供：平野真理（お茶の水女子大学）

指定討論：遠藤利彦 井（東京大学）

企画趣旨：

近年，非認知能力への関心が高まっている。非認知能力は社会情動的スキルや社会情緒的コンピテンスとも呼ばれ，ある特定の特性をもつ心理特性の集合を指す。その特徴とは，第 1 に何らかの望ましい社会的結果（学業成績，収入，心身の健康など）を予測し，第 2 に測定が可能であり，第 3 に介入やトレーニングで変容可能なことである。加えて，知能検査や学力テストで測定されるもの「ではない」心理特性を総称して，非認知能力と呼ばれる。本シンポジウムでは非認知能力について，基本的な考え方，具体的な応用事例，注意点という 3 つの観点から理解を深めることを目的とする。第 1 に，非認知能力の背景や知能や学力以外の心理特性に注目することの意義について紹介する。第 2 に，具体的な教育場面への応用可能性について考える。そして第 3 に，非認知能力の考え方が広く社会においてどのような意味をもつのか，また留意すべき点について個人差や発達観の観点から論じる